

芦屋市立美術博物館では、現在約 1,500 点の美術作品を収蔵しています。
本展では 2 つの特集によって、コレクション作品をご紹介します。

「具体美術協会／芦屋」

展覧会概要

芦屋市立美術博物館では、1954 年に芦屋で結成された「具体美術協会（具体）」に属した作家の作品を多数所蔵しています。本特集では、当館コレクションの「具体」の作家の作品約 45 点とともに当時の資料を展覧し、1972 年に解散するまでの「具体」の時間を紹介します。

【見どころ】

- 2024 年は、国際的な活動を展開した前衛美術グループ「具体美術協会（具体）」が 1954 年に結成されてから 70 年という記念の年となります。
このたび芦屋市立美術博物館が誇る「具体」コレクションから 35 名の作品約 45 点を展示し、それまでの美術の概念にとらわれない実験的、独創的な作品を数多く生み出した「具体」の 18 年を振り返ります。
- 本展では、機関誌『具体』やグタイピナコテカで開催された各作家の個展パンフレット、展覧会関係資料等を展覧するほか、記録写真や記録映像をご覧くださいコーナーを設け、アーカイブからも「具体」の時間を辿ります。
- 1991 年の開館時より収蔵してきた当館の「具体」コレクションは、「具体」の第 1 世代から第 3 世代の会員の作品を多数所蔵しており、国内外で類を見ない充実したコレクションとなります。

【出品作家】

今井祝雄、上前智祐、浮田要三、小野田實、金山明、菅野聖子、聴濤襄治、喜谷繁暉、木梨アイネ、坂本昌也、嶋本昭三、白髪一雄、白髪富士子、鷺見康夫、田井智、高崎元尚、田中敦子、田中竜児、坪内晃幸、名坂千吉郎、名坂有子、堀尾昭子、堀尾貞治、前川強、正延正俊、松谷武判、松田豊、向井修二、村上三郎、元永定正、山崎つる子、吉田稔郎、ヨシダミノル、吉原治良、吉原通雄

*50 音順／当館コレクションより

「具体美術協会（具体）」とは

兵庫県芦屋市に在住していた、関西において戦前から前衛画家として活躍していた吉原治良をリーダーに、彼に作品の批評を受けていた阪神間の若い作家たちによって、1954 年に結成された前衛美術グループ。創立メンバーは 17 名、18 年の活動期において 60 名を超える作家が会員として参加した。吉原治良による「人の真似をするな」というスローガンを掲げ、「われわれの精神が自由であるという証を具体的に提示したい」（『具体』創刊号、1955 年より）という理念のもと、会員たちは何ものにもとらわれない自由な発想と、新しい美の創造に向けた独創的な作品の発表を続けた。1972 年の吉原治良逝去を機に解散。「具体」は、戦後の日本美術を代表するグループとして、国内外で高い評価を受けている。

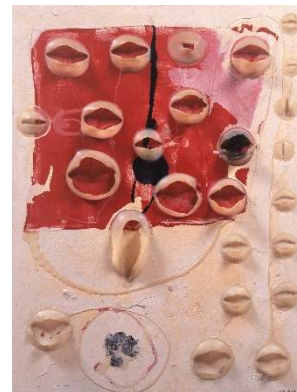
【展示作品・資料】 作品約 45 点、資料約 40 点（予定）



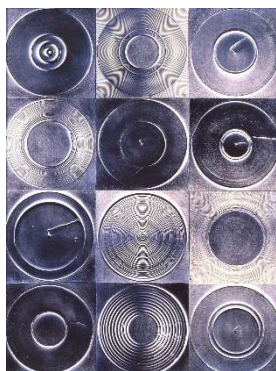
1. 嶋本昭三 《作品》
1954 年
塗料、新聞紙
©shimamotoLAB Inc.



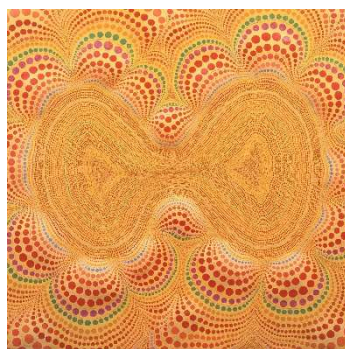
2. 田中敦子 《作品》
1957 年
油性インク、油彩、紙
©Kanayama Akira and
Tanaka Atsuko Association



3. 松谷武判 《繁殖の 63-130》
1963 年
ビニール接着剤、アクリル、板



4. 名坂有子 《UNTITLED》
1963 年
アクリル、板



5. 小野田實 《作品 64-H》
1964 年
油彩、ビニール接着剤、樹脂、板
©ONODA Minoru



6. 菅野聖子 《作品》
1965 年頃
塗料、ダンボール、板

1～6 全て芦屋市立美術博物館蔵



7. 第 1 回具体美術展
(1955 年、小原会館・東京)
写真提供：大阪中之島美術館



8. 野外具体美術展
(1956 年、芦屋公園・兵庫)
写真提供：大阪中之島美術館

「アプローチ！ ―アーティストに学ぶ世界のみかた」

展覧会概要

世界には、実に多くの物質や事柄が存在しています。

自然界は引力、重力など目に見えない力のもと、空気や光、水で満たされ、数多の動物や植物が生きています。人々は自然界と共生しつつ、他の人間と関わり社会を構成し、感情や情報をやり取りしながら生活しています。

アーティストたちもまた、私たちと同じ世界に生き、世界に存在する数多の物事から発想し、唯一無二の作品を創造します。

彼・彼女らは、世界をどのようにとらえ、制作へとつなげているのでしょうか？

本展では、当館が所蔵する近現代作家の絵画、立体、写真作品を、「自然」「社会・人間」「造形」といったキーワードのもとに展観。制作を通して世界と関わるアーティストたちの視点と制作の手法に迫ります。

【出品点数】

作品約 60 点

【出品作家】

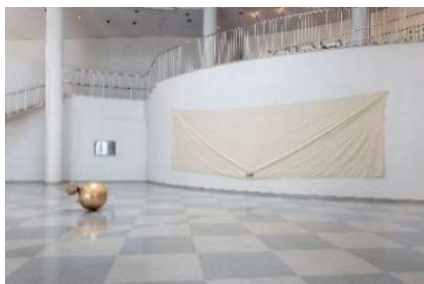
蟻田哲、植松奎二、清水九兵衛、デイヴィッド・ナッシュ、戸谷成雄、中川佳宣、ハナヤ勘兵衛、舟越保武、紅谷吉之助、堀尾貞治、松井正、三島喜美代、元永定正、渡辺信子

【見どころ】

- 当館が所蔵する近現代作家 **14 名**の**絵画、立体、写真**作品約 **60 点**を展観。
多彩な表現の作品たちを一堂にご覧いただきます。
- アーティストたちは世界にあふれる物事を独自の視点でとらえ、作品によって可視化し、私たち（鑑賞者）にたくさんの気づきを与えてくれます。本展では、アーティストたちの**視点**と**アプローチの手法**を紹介し、みなさんに、私たちと同じ世界を生きるアーティスト像へ**アプローチ**していただきます。
- 「世界」に存在する物事の中から、それぞれのアーティストたちが制作の**動機・題材**としたものを**キーワード**として、作品とともに紹介していきます。
* キーワード：自然、重力・引力、植物、命、戦争、宗教、情報、災害、労働、素材、形体、造形…

【展示作品】

I 自然へのまなざし



1. 植松奎二 《Triangle - Stone / Cloth》2021 年
石、綿布 撮影者：高嶋清俊



2. 中川佳宣 《果実あつめ》1990 年
ミクストメディア

II 人間の営み



3. ハナヤ勘兵衛 《銀めし》1952 年
ゼラチンシルバー・プリント

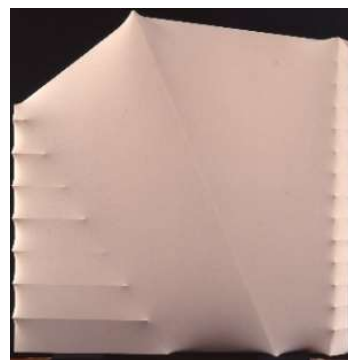


4. 松井正 《オリヤンタイ・タンボ》 1985 年
油彩、布

III 造形へのまなざし



5. 元永定正 《あかのうえ》〈ほへとシリーズ〉
1986 年 シルクスクリーン、紙



6. 渡辺信子 《UNTITLED》1994 年
布、板

全て芦屋市立美術館蔵

関連イベント

1. まなびはく・講座『『具体』研究と 1980 年代』

講 師：尾崎信一郎（鳥取県立美術館 館長予定者）、平井章一（関西大学文学部 教授）

内 容：「具体美術協会（具体）」がヨーロッパで再評価されはじめた 1980 年代、学生時代に「具体」の調査研究を始め、その成果をその後学芸員として展覧会で発表してきたお二人に、当時の「具体」をとりまく状況や、元メンバーとの交流など自身の経験をお話しいたします。

日 時：6 月 1 日（土）14:00-16:00（予定）

会 場：当館 講義室

対 象：どなたでも

定 員：80 名（予定）* 申込不要、直接会場へ

参加費：無料（ただし要観覧券）

2. びはくルーム・ワークショップ「植物を写す『蜜蝋ドローイング』」

講 師：中川佳宣氏（美術家、大阪芸術大学美術学部 教授）

内 容：植物をモチーフとした作品を手掛ける中川さんと一緒に、当館周辺の植物を観察し、蜜蝋による独特の風合いをもつドローイング作品を制作します。

日 時：5 月 18 日（土）13:00-16:00

会 場：当館体験学習室 ほか

対 象：小学 3 年生以上

定 員：20 名 * 事前申込制

参加費：200 円（要観覧券）

3. 学芸員によるギャラリートーク

日 時：4 月 20 日（土）、5 月 11 日（土）、12 日（日）、6 月 9 日（日）（予定）

いずれも 14:00～、1 時間程度

ガイド：本展担当学芸員（大概晃実、川原百合恵）

会 場：当館 展示室

対 象：どなたでも * 申込不要、直接会場へ

参加費：無料（ただし 4 月 20 日（土）、6 月 9 日（日）は要観覧券）

【申込について】

2. ワークショップは事前申込が必要です。お電話（0797-38-5432）かメール（ashiya-bihaku@shopro.co.jp）

にて、お名前（お子さまの場合は学年）、ご住所、ご連絡先をお伝えください。応募多数の場合は抽選。

お問い合わせ：芦屋市立美術館

〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町 12-25 TEL 0797-38-5432 FAX : 0797-38-5434

ホームページ：ashiya-museum.jp X(旧 twitter)：@ashiyabihaku Instagram：ashiyacitymuseum

企画内容／担当学芸員 大概晃実、川原百合恵 画像貸出等／広報 乾紀子

【アクセス】 徒歩：阪神電車芦屋駅から南東へ約 15 分

阪急バス：阪神芦屋駅①永保橋行(南向き)のりば 系統 1「新浜町」行き

JR 芦屋駅北側⑤のりば 系統 1「新浜町」行き または

JR 芦屋駅(南口)のりば 系統 8「芦屋浜営業所前」行き

阪急芦屋川駅南側①シーサイド行きのりば 系統 1「新浜町」行き

いずれも「緑町」停留所下車徒歩約 3 分

併設駐車場：当館をご利用の方は 1 時間無料。館内駐車割引有

以上

連絡先

E-mail: info@ashiya-city-museum.jp

FAX(0797)38-5434

ご希望の画像番号に○をつけてご返送をお願いいたします。本展をご掲載いただける場合、読者・視聴者プレゼント用招待券(10組20名様まで)もご用意しておりますので、お気軽にご連絡ください。

番号	作者・作品名・制作年・素材等 ※具体-7,8以外は全て芦屋市立美術博物館蔵
具体-1	嶋本昭三《作品》1954年 塗料、新聞紙 ©shimamotoLAB Inc.
具体-2	田中敦子《作品》1957年 油性インク、油彩、紙 ©Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association
具体-3	松谷武判《繁殖の63-130》1963年 ビニール接着剤、アクリル、板
具体-4	名坂有子《UNTITLED》1963年 アクリル、板
具体-5	小野田實《作品 64-H》1964年 油彩、ビニール接着剤、樹脂、板 ©ONODA Minoru
具体-6	菅野聖子《作品》1965年頃 塗料、ダンボール、板
具体-7	第1回具体美術展(1955年、小原会館・東京) 写真提供:大阪中之島美術館
具体-8	野外具体美術展(1956年、芦屋公園・兵庫) 写真提供:大阪中之島美術館
アプロ-チ!-1	植松奎二《Triangle - Stone Cloth》2021年 石、綿布 撮影者:高嶋清俊
アプロ-チ!-2	中川佳宣《果実あつめ》1990年 ミクストメディア
アプロ-チ!-3	ハナヤ勘兵衛《銀めし》1952年 ゼラチンシルバー・プリント
アプロ-チ!-4	松井正《オリヤンタイ・タンボ》1985年 油彩、布
アプロ-チ!-5	元永定正《あかのうえ》〈ほへとシリーズ〉1986年 シルクスクリーン、紙
アプロ-チ!-6	渡辺信子《UNTITLED》1994年 布、板

貴社名	
媒体名	(新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・その他)
ご担当者名	
ご住所	〒
電話番号	TEL FAX
メールアドレス	@
URL	
掲載・放送予定日	
写真到着希望日	
招待券希望枚数	組 名分希望

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)などを当館までお送りくださいますようお願い申し上げます。取材・撮影希望の場合は事前にご連絡ください。

[広報用画像の使用について]

※画像データの使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。※広報用画像の掲載の際は、各画像のキャプションとクレジットを明記してください。※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたり、キャプション等の文字が画像にかぶらないようレイアウトにご配慮ください。※具体-2の画像はweb上で利用する場合は、諸条件があります。

※上記以外でご希望の画像がございましたら、お問い合わせください。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。